

第5回 稲敷市事務事業評価 外部評価委員会

日時：令和3年1月15日（金）午後2時00分～

場所：稲敷市役所本庁舎 3階 312会議室

発言者	発言内容
-----	------

1. 開会

事務局	本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。只今より稲敷市事務事業評価外部委員会第5回会議を始めさせていただきます。
-----	--

2. 委員長あいさつ

事務局	それでは、お配りした会議次第に沿って「2. 委員長あいさつ」を委員長、よろしくお願いします。
委員長	本日もよろしくお願いします。コロナ第3波がひどいことになってまいりまして、このような形での開催になってしまいました。今まで4回にわたってご議論いただきまして、かなり外部評価の形が出来てきたかと思えます。今日は、資料を事前にお送りいただき、それぞれ施策評価及び事務事業評価を実際に行っていただきましたので、評価してどうだったか、改善点や修正すべき点を出していただき、もっとブラッシュアップ出来ればと思っておりますので、忌憚のないご意見をよろしくお願いします。

3. 報告

(1) 第4回外部評価委員会 議論のまとめ

事務局	それでは報告の方に入らせていただきます。進行は要綱第6条に「委員長は会議の議長となる」とありますので、委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。
委員長	それでは、「3. 報告（1）第4回外部評価委員会 議論のまとめ」につきまして事務局よりご説明お願いいたします。
事務局	《資料説明》
委員長	ありがとうございます。ご意見ご質問ありますか。
副委員長	私は前回意見を申し上げまして、反映していただいておりますので、特段追加の意見はないです。
委員	私の方も先日、事務局の皆さんからご説明をいただきまして、基本的にこれで結構ではないかと思えます。
委員長	ありがとうございます。ではこちらでよろしいということで、進めさせていただきます。

(2) 行政評価に関する議会報告の明文化の有無について

委員長	続きまして、前回依頼しておりました「3. 報告（2）行政評価に関する議会報告の明文化の有無について」事務局よりお願いします。
事務局	《資料説明》
委員長	ありがとうございます。ご意見ご質問ありますか。
副委員長	調査の方、どうもご苦労さまでした。これは私はある程度想定していましたが、こうやって確認して明らかにするというのも重要です。基本的に利害関係を明文化するのは、もう少し調査特別委員会などを設置した場合など、きちんとした制度で進める場合には必要になってくると思いますが、全協で全体的にやってはいるけど、特段の規定もない状態でやられているのが実態だと思います。
委員長	佐々木先生、いかがですか。
委員	明文化を進めるとそれに縛られるということもあると思いますので、柔軟な対応という点では、明文化はせずに、必要に応じて、実施をしていただくということによろしいのかなと思います。
委員長	ありがとうございます。やはり柔軟性という言葉はございますが、どうしてもデリケートな問題になりがちな部分ですので、恐らくタイミングによっても違ってきますし、もしくは市町村によっても当然状況は違うと思いますので、明文化はしないということによろしいでしょうか。
副委員長	報告の仕方は、ある程度事務局に考えてもらった方がよいかと思います。全協で報告するというのであれば、明文化しないでやるのが通常のやり方だと思います。
委員長	ありがとうございます。今、小嶋委員からもご提案がございましたので、明文化しないということで、詳細につきましては担当部局にお任せするというところによろしいですね。
副委員長	はい。
委員長	ありがとうございます。ではそのようにさせていただきます。

4. 議題

(1) 評価方法について

① 施策評価・事務事業評価の評価表について

委員長	では続きまして議題に入りたいと思います。評価方法について、これが今日の本題になります。まず施策評価、事務事業評価の評価表について、皆様からご意見ご感想伺うわけですが、まず事務局からご説明いただけますでしょうか。
事務局	《資料説明》
委員長	いま4つの議題をいただきましたので、1つ1つ協議したいと思います。まず1つ目が、今回、実際に郵送していただいた資料を基に、施策評価及び事務事業評価をした感想や意見ということになると思います。恐らく色々な意見が出てくると思いますので、お一人ずつ伺いたいと思います。小嶋委員、いかがですか。
副委員長	<p>私が作成した資料をざっとご覧いただいて、皆さんにとって私がした評価では不十分な所については伺いたい。また、実際評価して疑問点が湧いた部分もありますので、その部分については是非お聞きしたいという気持ちはあります。どのような点で疑問点が湧いたかという、例えば資料5-2ですと、学校図書館司書配置事業と、調べ学習の推進状況がどうなっているかも、現況が分からないので確認したいです。奨学資金貸与事業も、返済の滞納がどのような状況にあるのか、それが予算枠にどう影響するのか、例えば滞納が増えれば枠が小さくなって、貸出枠がなくなってしまうとか、そういう問題があるのかどうか、それを確認したかったです。英語検定は素直に、ただ上げたいとだけいてるだけで、何か方策を考えているのかどうか分からなかった。あとは、いなしき子ども大学事業についても、どんなプログラムの見直しを行っているか確認したほうがよいと思います。適応指導教室についても、子ども達をほったらかしにしているのではないかという印象をうけるのですが、そんなことはないという意見があればお聞きしたほうがよいと思いました。</p> <p>そのような感じで、最初から担当者の熱い気持ちをお聞きして時間を費やすのではなくて、我々が疑問に思ったことを担当者からお聞きする場であるならば、私は必要だと思います。ただ一方的に熱い思いを聞いても、我々は受け止めることが出来ないのもっとデータや実際にやっていること、我々が知らないことがどうなっているかなど、そういうのをお聞きするならよいという感じがしました。</p> <p>資料5-3も同じようにお聞きしたいことがあります。それは自由意見のところを読んでいただければ何点か。こちらは企画財政課ですのでお聞きできると思います。一番下は地元大学とは書きましたが、要するに地</p>

	元ではなくてもよいのです。身近な大学を活用した方がより有効だと思います、一応地元という言葉を入れています。常磐大学でもいいのですが、学生を利用して定住策にも結び付くようにと思います。
コンサルタント	地域おこし協力隊ですか。
副委員長	そうです、地域おこし協力隊です。 単純に縮小しないでもっと活用した方がよいと思います。これはどちらかというと考え方なので、ヒアリングではないかもしれませんが。私からは以上です。
委員長	はい。ありがとうございます。今の小嶋委員のご意見で重要なポイントというのが、ヒアリングの意味ですね。もし実施するならばということでしたけれども、例えば1つの考え方としては、今回は郵送で事前に資料を送りいただいた上で、我々は評価をするわけですが、その際に疑問に思った点であったり、ヒアリングでは是非聞きたい点、質問項目もまとめる欄があって、それで一緒にお送りするような形にしてもよいかなと、小嶋委員の意見を聞いて思いました。ありがとうございます。委員、いかがでしょうか。
委員	私の方は評価の方が間に合わず、転送させていただいていないのですが、実証させていただいて、まず全般的なコメント、感想としては、将来的にどなたが外部評価委員になるかは分からないとは思いますが、これを1回目から送られてきても、行政のことを知らない人が、最初から評価をするのは難しいというイメージを持ちました。 ですので、少なくとも1回目はZoom会議であっても、対面で直接集まるにせよ、資料の読み方であるとか、記入の仕方に対する意思統一、認識の統一というものが必要なのではないかと思います。そこをやった上で、資料を預けて期日を切って見てくださいというのが1つ必要だと思います。 もう1つ、やはり読み込んでいくと、どうしても分からない所があるので、そこについては資料を送った後に、この事業の担当課の方には、それこそZoomでいいと思いますが、質問タイムを設置して、何時から何時まではこの人がいますので、質問がある方はログインをしてください、というように集まらなくてもよいので、確認をするようなシステムもしくは制度をつくってもよいというイメージがあります。 資料全体としましては、やはりどの資料を見ていいのかが分からないことになるのではないかと思います。私も一応行政学なのですが、専門が評価ではないので、ポイントはどこなのかということを、最初はよく分かりませんでした。読み込んでいって慣れればよいと思いますが、その所ですね。

	<p>あとは必ずしも、内部評価の表というものが、外部評価をする人にとって、必要な情報が全てあるかということ、そこが必ずしもないのかなど。例えば、これは施策評価の評価表の所でいうと、たくましく生きるいなしきっ子プロジェクトですと、子どもの話ですが、図書館来館者数は大人も含めた全体の数です。そうすると、子どもは使っているのか使っていないのか、そういう所が、担当者の方がいらっしゃれば、大体このくらいという数字は出てくると思いますが、資料のみでやる時には、その辺りの具体的な数値を入れるとかがあると分かりやすいと思います。</p> <p>あとは、お手数になるかもしれませんが、先程小嶋委員がご指摘をされたキャンプのようなものですが、例えばそのパンフレットや募集の要綱もあるのであれば、そういったものも付けないと、それぞれの事業のイメージが湧きにくいと思いました。ここは評価委員がどのような人なのかということにも関わってきますが、副委員長のように住んでいる人であれば、そのようなものはいらないと思うかもしれませんが、逆に水戸など他の所から来る人間にとっては、基礎的な地理や子どものことが分からないので。評価委員の選び方にも関係されるかもしれません。全般的な話としてはそういう所です。</p> <p>あとは、事業評価評価票の方ですが、こちらの方は、評価項目と担当課評価の表記が合っていないとなると、そこで混乱をしたいと思います。資料5-2の学校図書館司書配置事業は、担当課評価が見直し（課題の解決）、三担当評価が改善（発展的改善）、しかし評価項目は、拡充、現状維持、改善、縮小、統合、完了、廃止・休止となっていますので、この辺りはパッと見た方は混乱すると思います。それぞれの評価で違う言葉が使われているという所は、混乱を招くと思いました。</p> <p>自由意見の所に関しましては、どこまで外部評価委員が提言なり自由意見を言っているのかが、個人的には悩んだ所です。評価という所に特化して評価が上手くいっている、いっていないということなのか、それとも政策全般、事務事業全般に対する提案までしているのか、そこは外部評価委員の在り方という点でいうと、考えていかななくてはいけないと思います。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。今の委員の意見をまとめますと、4つ大きなポイントがあったと思いました。1つ目が資料の読み方や記入の仕方の認識についてある程度統一が必要ですので、第1回目については見方のポイントをレクチャーする必要があるというのが1点目。もう1つが、それぞれの事業のイメージが湧きにくいので、パンフレットなどもあった方がよいという意見でした。また、先程の小嶋委員のご意見と近い部分がありましたが、委員はZoomなどで質問タイムを設けたらいかかという意見がありました。分からない点などをまとめておいて、あとでヒアリングの時に聞くといった仕組みは必要だというのが、小嶋委員と共通する部分だと</p>

思います。もう1つが、いわゆる担当課評価と三担当評価と外部評価で評価項目にズレがあるので、若干混乱するというご意見でした。最後は自由意見をどこまで書いていいのか、言っているのかが分かりづらかった。以上4点あったと思います。後ほど、この辺りも事務局からご説明いただければと思います。ありがとうございました。

私からもいくつか意見を述べさせていただきます。私は雑感をいくつか書いてお送りさせていただきました。まず最初が、資料5-1 施策評価評価の「②評価修正の理由（自由記述）」という箇所がございました。ここなのですが、下の評価方法を見ると、「②施策評価表と評価内容が異なる場合にはその理由の記載をお願いします」という記述があるわけですが、この「施策評価表」はどれかが分からなかったです。恐らく資料1-1、1-2、1-3を指していると思ったのですが、資料1-1から1-3は、「施策評価用評価書」ですし、施策評価表といったら、まさに資料5-1自体が「施策評価評価票」なのですよね。「外部による施策評価」、「内部による施策評価」など、何の施策評価かをはっきりさせないと書きづらかったのが1点目です。

それから、今回は施策評価については資料5-1と5-2と2枚がありました。5-1は施策評価、5-2は施策にぶら下がっている事業の評価ということになりました。これはやり方次第で、統一を図る必要はないのかもしれませんが、私は資料5-2をまず書き込んで、その施策にぶら下がっている事業が上手くいっているか上手くいっていないか確認した上で、総合評価として資料5-1として書いたほうが書きやすかったというのが感想です。

3点目なのですが、今回はかなり沢山の資料を送っていただいたのですが、資料2-1から2-3をどこまで使うのかという部分でした。施策評価は私個人ではそこまで細かなくてよいと思っておりまして、というのも資料1-1から1-3で、かなりまとめて下さっているのですね。特に私が一番この施策評価で参考にさせていただいたのは、資料1-1から資料1-3の数値目標についての評価の部分でした。恐らくこれは、資料2-1から2-3をまとめたのがこれだと思いますが、この委員会で何回もお話しさせていただいております、いわゆる評価疲れでの部分に関わってくる話かと思います。あまり細かすぎても、かえって形骸化してしまい、どうしても労力が多くなってしまって、あまりよろしくないということを考えると、私はこの施策評価に関しては、資料1-1から1-3の部分で十分だと思っています。なので、資料2-1から2-3はあってもよいですが、あくまでサブとしての位置づけだと思います。もしも、資料2-1から2-3をつけるのであるならば、順番に気をつけて資料を作成していただきたい。例えば、資料1-1をご覧いただきますと、2ページ目からですかね、中

の事務事業としては①から⑧まで8つぶら下がっているわけです。にもかかわらず、資料2-1は8つ全部あるわけではなかったり、もしくは関係ないものも入っていたように見受けられました。これが正直非常に見づらかったです。なので、もしも資料2-1のようなものを付けるのであれば、このレイアウトは少なくとも今出して頂いた資料1-1とリンクさせるような形で資料作成をしないと、使いづらいと思いました。以上が施策評価についてでございます。

次に事業評価についてです。資料3に基づいて資料5を記入するわけですが、資料3は資料2-1から2-3と同様に、いわゆる実施計画書とそれから事務事業評価調査票というのが、一緒に綴じこまれているのですよね。例えば、1ページは実施計画書でして、2ページと3ページは事務事業評価調査書というように、事務事業の順番で混ぜて下さっていますが、正直私はすごく使いづらかったです。実施計画書はそこまで必要なのか、むしろ私は事務事業評価調査票を見ながら評価ということの方が正直やりやすかったです。ただ、細かい予算や財源が書いてあったりするので、実施計画書は必要かもしれないです。だとすると、この実施計画書と事務事業評価調査票は別冊子にすべきだと思います。実施計画書は実施計画書でまとめていただいて、次の項目になってしまいますが、事務事業評価調査票は、見開きで1つの事業にした方が使いやすいです。見開き2ページ3ページは財政運営事業、見開き4ページ5ページが財政事務管理事業といった形で、1つの事業につき見開き2ページを使って、まとめていただいた方がよろしいかと思えます。

それから、今回いくつか評価しにくかったのが、評価が上手くいっているのかいっていないのか、事業が上手くいっているのかいっていないのかの項目のBの事務事業の成果、事務事業実施のDOの部分、ここを結構私は参考にさせていただいたのですが、これに関しては記入されていないものも結構あったので、使いにくかったです。例えば、ここでも赤字比率でマイナス4.7、4.68(公表)と書いてありますが、これがどういう意味なのか、どういう数値目標に対して、この数字というものが上手くいっているのかいっていないのかが分からなかったです。さらにページの一番下④の将来負担比率で、2018年度は12.4という数字が入っていて、2019年度は133という数字が入っていて、この数字は何だろうというのが、正直私にはよく分からなかったです。なので、恐らく事務事業を評価する時に、多分ここが一番分かりやすいポイントになるかと思えますので、ここに記載がないとなかなか評価しにくいのが感想です。

また、Cの事務事業の評価の部分も参考にするわけですが、ここをあまり細かく作文する必要はないと思いますが、正直何故2なのか、5なのかがよく分からなかったです。もう1つは佐々木先生が先程仰ったのです

	<p>が、いきなりこれを郵送で資料が送られてきて、さあ評価してくれと言われても、ちょっと難しかったので、初回は集まって、担当課から外部評価委員に評価の仕方みたいなものを直接レクチャーしていただく機会がないと、なかなか難しいと思いました。以上です。事務局いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>大変参考になるご意見、ありがとうございました。</p> <p>今回は、3つの計画が今年度から始まるが、事務事業評価は令和元年度の事業になるため、計画の端境期のような状況になり、大変わかりにくい状況で申し訳ございませんでした。</p> <p>ヒアリングに関しては、疑問点があるからそのためにヒアリングを実施したいというご意見は是非、参考にさせていただきたいと思います。</p> <p>また、評価前に外部評価委員である程度評価方法や書類の見方を含めてレクチャーが必要だというご意見も、是非、取り入れさせていただきたいと思いました。</p> <p>さらに、自由意見についても、単に自由意見欄を設けるのではなく、もう少し具体的に内容を記載しないと意見が書きにくいというご指摘もごもっともです。</p> <p>事務局としては、ビルドに繋げる自由意見欄にできれば、具体的には、将来に向けてこういう風にした方が良いというご意見をいただけるとよいと考えこの欄をつくったのですが、自由意見と単に記載してしまったので、大変分かりにくかったと、そこは改善させていただきます。</p> <p>あとは、事務事業評価票については、非常に見づらい点については、実際に評価を行う計画3年目には、各担当課の事務事業評価が3年分積み上がってくると思うので、もう少し状況が把握しやすくなっているのかなと思います。</p> <p>実施計画表を資料から除いた方がいいかどうかは、委員の皆さんで話し合ってください、より評価しやすい方を選択いただきたいと思いますと考えております。</p> <p>先程、砂金先生からいただいたこちらの事務事業評価の根拠なのですが、各事業担当者の所感で評価している状況であり、特に明確な基準があって判断しているわけではないので、これがなんで4なのか、2なのかと聞かれると、恐らく担当者も答えに窮してしまうのではないかという状況でございます。</p> <p>あと、是非議論いただきたいのは、ヒアリングのやり方です。質問をするためにヒアリングをした方がよいのか、ただ質問票を集めて、例えばそれを事務局で一回とりまとめて、担当者に時間をおいて回答していただいたものを返すだけで大丈夫なのかも、ご議論いただきたいと思いました。以上です。</p>

委員長	<p>ありがとうございました。それでは1つ1つやっていきましようか。まずヒアリングについてで、もう1回振り返ると小嶋委員からは、熱い思いは聞かなくていいから、郵送で評価する際に出来ればヒアリングで聞きたい質問項目をまとめて送る形のご提案がありましたし、委員からは質問があった場合には、時間を決めておいてZoomで聞けるような仕組みがあった方がよいという意見がありました。この辺りについて、お二人いかがでしょうか。ヒアリングのやり方というか、ある程度こちらから書面で見ながら疑問点をまとめて事務局に送って、それを担当課に渡していただいてヒアリングの場を設ける方がよいのか、それとも質問項目を事務局でまとめたものを担当課に渡して、担当課からまたそれに対して文書で回答を寄せていただくという形でよいのかという案ですが、いかがでしょうか。</p>
副委員長	<p>私は役人だったので、県でも似たような事業をやっていることが多いので、評価出来るのですが、全く経験がないと確かにきついと思います。</p> <p>評価しようがないという項目については、ある程度説明してもらわないと難しいということであれば、一緒に説明してもらおうという手法でいいと思うのですが、それにしても時間をかけ過ぎではないかと思います。</p>
委員長	<p>恐らくこの3人の委員で共通しているのは、そういうヒアリングはなくていいという部分は共通していると思います。問題は、どのようにヒアリングをするか、書類を見て分からなかった所を質問して聞くというやり方でよろしいと思いますが、その実施の仕方ですね。</p>
副委員長	<p>1からはやらないということによろしいですか。</p>
委員長	<p>1からはやらないという意見は、3者合意、3人とも共通の意見だと思っています。</p>
副委員長	<p>それでしたら、前もって疑問点を提出させていただいて、それについて回答いただくということで、それは直接もらうかリモートでもらうかはやり方ですのでお任せしますが、そういうやり方が私はよいと思います。</p>
委員長	<p>とりあえず実際にヒアリングを行うのか、それとも書面での回答でもよいのかは任せるといったご意見でしょうか。その辺り、佐々木先生いかがでしょうか。</p>
委員	<p>質問の内容によると思います。その場で答えられないものも出てくると思いますので、まずは書面でそれぞれ期限を区切って、事前通知をした上で返ってきたものが、そういうものではない、追加でこれも聞きたいというのも出てくると思いますので、そこはオンラインであっても通常の対面であってもよいと思いますが、追加的な質問については、担当者の方から聞けるような二段階がいいと私は思います。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。まずはとにかく書類を郵送で送っていただいたものを、書類をベースにして、我々が評価をし、それで分からなかった部</p>

	<p>分に関しては、質問項目でまとめて一仕事務局に送ると。それに対して担当課から照会していただいて、担当課の回答をもらうわけですが、それでも分からないということであれば、二段構えでヒアリングを行うというイメージでよろしいでしょうか。詳細につきましては、事務局でご検討いただければと思います。</p>
事務局	<p>承知いたしました。1つお伺いしたいことがありまして、書類としてはこちらの施策評価書と、実施計画書と事務事業評価調査票のそれぞれの対応しているものが、本来であれば3年目なのできちっと揃っているものをお渡しできるかと思いますが、まず第1回目に委員の皆さんに送る資料としては、この2セットでよろしいでしょうか。あとは実際に評価票についてはお話があったように、事前に説明をした上でお送りするようにしようと思いますが、これで大丈夫かどうかを議論いただいてもよろしいでしょうか。</p>
委員長	<p>つまり、施策評価は資料1から資料3のこれでいいかという所ですよね。</p>
事務局	<p>そうです。</p>
委員長	<p>いかがですか。先程私がお話したのは、施策評価に関しては資料1だけでいいと思っていて、事業評価に関しても実施計画書はなくてもよいと思っています。皆さんいかがでしょうか。実際に評価されてみてどうだったかを踏まえてご意見を伺いたいと思うのですが。</p>
副委員長	<p>私は実施計画書をいただけるのなら参考までにいただければと思います。ただ、評価の中心になるのは事務事業評価調査票ですから、こちらに基づいて検討をしていくこととなりますので、もう少し内容は精査してもらえるとありがたいです。担当者によって相当ブレがあると思います。</p> <p>これはどこまで信用していいのか、考えの根拠にしているのか、疑問が湧いてしまうと思いました。特に評価の点数やグラフなど、全体的に恣意的だと感じました。これはあまり参考にならないなど。</p>
事務局	<p>分かりました。評価方法については検討させていただきます。</p>
委員長	<p>先程お話しされた通り、これはまだ令和元年度なのでという所もあるのでしょうか。令和3年の評価をやる時には、もう少し中身が入ってくるかと思いますが。委員、いかがですか。</p>
委員	<p>私も小嶋委員がご指摘された通り、実施計画書と事務事業評価調査票のどちらもあってよいと思います。先程、委員長が仰った通り、それをA3サイズ1枚にしてくれるとパッケージとして分かりやすいと思います。今、ご送付いただいたものは、表裏面でまとまっているものもあれば、ページがずれてしまっているものもあるので、どこからどこまでがどの事業のものなのかが分かりづらいということがありました。あとは、副委員長</p>

	<p>がご指摘いただいた通り、事務事業評価の評価理由欄がとてもアバウトなので、初めてみる人、もしくは事業に馴染みがない人にしてみると、これで判断できないというのがあります。例えばそこに数値を入れてくれるとか、KPI まではいかなくてもいいのかもしれませんが、何か数値を入れてくれて、評価の理由を入れていただかないと、評価疲れになってしまうかもしれませんが、コスト感覚をもって取り組んでいるのにコストが変わっていないと言われても、じゃあどうなんだということを思ってしまいました。</p>
委員長	<p>質問ですが、実際にご準備いただいた時は、実施計画書と事務事業評価調査票は、このように元々 1 ページ 2 ページ 3 ページとまとまっているのですか。</p>
事務局	<p>こちらについては、システムで運用しているので、1 ページ 2 ページ 3 ページとはまとまってないのですが、一気に吐き出そうと思うと、PDF でこのように繋がってくるだけなので、加工の仕方によって、委員長、副委員長、委員が言っていたように、A3 見開きで見えるような工夫は出来ます。</p>
委員長	<p>例えば実施計画書は実施計画書で別冊子にまとめていただいて、事務事業評価調査票は A3 で 1 つの事業が見開きにまとまるという形で吐き出すことは可能ということですね。</p>
事務局	<p>はい、可能です。手作業になってしまうかもしれませんが出来ます。</p>
委員長	<p>手間はどのくらい手間ですか。</p>
事務局	<p>新しく何かをつくるよりは全然手間ではないです。もう出来上がっているものを PDF に加工するだけなので、手間としては多くはありません。</p>
委員長	<p>分かりました。ではそのような感じで、次回どうなるかは分かりませんが、もし機会があればアウトプットのイメージを一回出していただけますか。実施計画書はこんな感じで、事務事業評価調査票の A3 版はこのような感じですよ。</p>
事務局	<p>はい。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。</p>
副委員長	<p>よろしいですか。実施計画書はあくまでも予算的に当初予算の要求ベースで数字が記載してあるので、実績ベースではないので、実際にどれくらい使ったのか分からない。それと、事務事業評価調査票の方は決算ベースで載っているように、継続事業については、前々からの金額的な動きがフォローできないので、決算ベースの金額を実施計画書の中に入れていただくと大変ありがたいと思います。</p>
事務局	<p>今のお話なのですが、令和 2 年度としたら令和 2 年度の決算の数値も実施計画書に入れてくださいということよろしいですか。</p>

	<p>これは今、調査票の方にこちらの方が反映できるようになっています。ですので、調査票の見え方の修正も今後考えさせていただきます。今でしたら皆さんの方にお配りしているものには、2018年と2019年の決算ベースの方が、調査票の方に出ているのですが、システムの画面上では、平成30年度と令和元年度の決算が入っているのです。こういった所に項目を入れることもできるようになっていますので、令和4年に外部評価をやる際には令和2年、令和3年の決算がこちらの方に見えるようにしたいと思っています。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。今の画面でもう1つ確認させていただきたいのですが、これは基幹統計調査事業ですが、基幹統計調査事業については、資料5-3の事務事業評価票に入っているのですよね。上から3番目に入っているわけです。基幹統計調査事業が資料3の8ページ9ページだったのですが、10ページ11ページの統計調査員確保対策事業というのは、資料5-3の評価票には入っていなかったもので、これはどうやって使えばいいのか分からなかったのですが、これは何だったのでしょうか。</p>
事務局	<p>今年度、いくつか統合している事業がございます。ですので今年度については基幹統計調査事業なのですが、昨年度は2つの事業名がありまして、そちらの方について評価しているのです、調査票は統計調査員の確保と基幹統計調査の事務事業が2つあるということになります。</p>
委員長	<p>今の説明を我々が資料で確認することはできますか。つまり、この2つの事業が統合されたということが分かると、5-3にもそれを踏まえて書けるのですが。</p>
事務局	<p>皆さんの方にお配りしている資料に関してなのですが、皆さんにお配りしている資料の方では確認が出来ていない状態ですので、そういった所も今度は確認出来るように配慮させていただきます。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。よろしく申し上げます。お送りいただいた資料で、これはどこに使うのだろうというのがいくつかあったので、そこが分かるようになればよろしいと思います。</p>
委員	<p>よろしいでしょうか。資料5-3の、今、砂金先生が仰っていた、事務事業評価票の方で、資料3に事業コードがふってあります。少なくともこの事業コードをどこかに入れ込んだ方が、迷った時に分かると思います。ただ、事業コードがいわゆる実施計画書と調査票とでズレますよね。そこが問題だと思います。</p>
事務局	<p>事務局からあった通り、今年度は事業を統合した関係でズレがあったり、令和元年は前回の計画で、今回の計画はまた違う計画になっているのでズレがあるなど、今年度は端境期で少し気持ち悪いことになっているのですが、それも分かるように調査票ないしどこかに分かるように入れておかないと混乱するということが分かったので、そちらもアウトプットイメ</p>

	<p>ージでお見せする際には、統合されていることが分かるようにしたいと思 います。</p>
委員長	<p>少なくとも資料5-3に、例えば資料3何ページと書けばいいと思いま す。例えば、基幹統計調査事業であるならば、資料3の8ページから11 ページ参照というように、この資料を見て評価してくださいというのが分 かればそれでよいので、そんな形を盛り込んでいただけたらと思います。</p>
委員	<p>よろしいでしょうか。手間という点でいうと、資料3実施計画書なんか にも、手書きでページが打ってありますよね。コードではなくてページを 使うとなると、かなり作業量が増えると思いますが、そこは大丈夫でしょ うか。</p>
事務局	<p>先程この作業はシステムで打ち出されるということをお話ししたと思 いますが、こういった手書きの所もPDFで貼り付けるシステムもありま すので、次の会議までに、いくらかこういうようにやるだろうとアウトプ ットの資料を皆さんにお見せしたいと思しますので、そちらの方でご確認 いただけたらと思います。</p>
委員	<p>皆さんの手間がかからなければよいのですが、コードの方が楽だという ことであれば、そもそもシステムに入っているコードを使った方がいいと 思います。ページ数があった方が見やすいと言えば見やすいですが、手間 との関係性も考えていただければと思います。</p>
委員長	<p>委員が仰った通りで、外部評価委員が見やすいというのが1つ重要では るわけですが、一方で事務局の手間があまり増えないということももう一 方で大変重要なので、その辺りあまり無理をなさらず、わざわざ手間暇を かけ過ぎないようにお願いします。</p>
副委員長	<p>資料5-1の施策評価の評価票ですが、「概ね期待通りの成果」がBに なっていて、ただAとBは成果という整理になっていますが、これ は成果ではなくて、調査票にあるように事業の進捗評価の方がよいと思 います。「順調」、「概ね順調」など。私はこの評価修正の理由がすごく書 きづらかったです。ここの期待通りの成果、概ね期待通りの成果というの は、成果ではなくて、事業の進捗が順調か、概ね順調かといった整理だ と思います。成果が上がったとか上がっていないというのは、今の段階で評 価をするのは早いと思います。隣に今後の提案とありますが、かなり内容 が重複してしまいます。順調かどうか、もっとやった方がいいなど、施策 の所はそういう評価のしかただと思います。成果が上がっているというこ とは、予見されたものが完璧だということです。言い過ぎかもしれませんが、 修正する必要はないという前提になってしまいます。これはどちらか という、もっとこうの方がよいという意見をもらうもので、例えば、 たくましく生きるいなしきっ子プロジェクトというのは、施策全体を見て 順調ですねと言うのではなく、こういう意見を取り入れた方がもっとよく</p>

	なる，ということだと思います。ですから，私は②の所では期待を下回っている方に○を付けました。委員長は期待通りの成果である A に○をしたみたいですが，私は C でした。そういう意味で，ここにもっとやった方がいいよというイメージのことを書いています。評価も C だし，今後の提案ももっとやった方がいいというイメージのことを書いています。
委員長	ありがとうございます。論点を 3 点いただきましたので，今の画面を元に議論を進めさせていただきます。まず①の事業の進捗度についてですが，これはやはり小嶋委員が仰っていることに付け加えると，ものさしが違うのですよね。進捗度の話をしているのか，成果の話をしているのかで，進捗度と言っている割には，ABCD は成果の評価をさせようとしているなど，この辺りもズレがあって分かりにくい要因かと思いますので，ここは小嶋委員が仰ったように，進捗度でいいのかなという気がしますがいかがですか。
事務局	仰る通りです。こちらの評価と合わせて，この評価の項目を合わせたいと思います。分かりにくくてすみません。
委員長	②の評価修正の理由が書きづらかったというご意見で，私も先程この評価修正の理由は何かという話をしましたが，ここの②の意図は何だったのでしょうか。
事務局	分かりにくく申し訳ございませんでした。改めて説明させていただきますと，重点プロジェクト 2 に対する評価は事務局が機械的に出すと「概ね順調」という評価がなされたが，実際に大局的な視点で見ていただくとどうなのか，という評価を委員の方々にさせていただきます。 それが事務局の評価とズレが生じる場合は，それは何故そう思われたのかということに記載していただこうと思いましたが，それがきちんと説明できていないので，大変分かりにくいので，この部分は修正いたします。
委員長	ありがとうございます。ということは，やはりそこは，例えば「重点プロジェクト施策評価用評価書と評価が異なる理由」のように，文言を直していただいて，どこと比べてということがはっきり分かるような形で，ここでは概ね順調だが，自分はやや遅れていると考えていると，それは何故なのかを書いてほしいということが分かるような文言にしてほしいと思います。もう 1 回資料 5-1 に戻していただいて，一番最後の③今後の提案ですが，ここは先程ビルドを書いてほしかったということがありました。実際に副委員長が書いてくださった部分も，ビルドの部分だと思います。だからこそ，移住定住が少し辛口になったりもしたわけですが，ですから更に成果を出すためにどうすればいいかというビルドの案だということが分かるような形で，説明書きがあるとよいと思います。

事務局	ご意見を踏まえて「さらに施策を進捗させるための提案」みたいなものだど、内容が絞られて意見が書きやすいのではと思ったのですがいかがでしょうか。
委員長	いかがでしょうか。私はそれがいいかなと思います。
委員	そうすると進捗だけなのですかね。進捗は進め方だけなので、それ以外の部分についての提案を含めるか含めないかというのがあると思います。
委員長	まさに成果の部分、もっと効果を出すためにはという、意図としてはそこも含めてということですよ。
事務局	はい、意図としてはそうですので、自由記述ということでしか書かなかったのですが、色々なご意見をいただきながら、思いとしては主にビルドのための施策評価でして、ビルドにつながる自由意見を書いていただきたいという思いがあります。
委員長	「よりこの施策を発展させるため」にとか、「より充実させるため」にとか、ビルドであることが分かるような文言に修正をしてみてください。
事務局	はい。
副委員長	よろしいですか。施策自体を否定する人はいないわけですから、どのように進めるかということだけ、前向きさで書いてもらうことで、委員長の仰った通りだと思います。事業評価と違って、廃止や完了といったものはないでしょうから。
委員長	委員、いかがですか。
委員	副委員長と同じです。総合計画なので、4年目3年目というのはあまり関係ないですよ。3年目にやって4年目にもう1年事業を回すことを考えるのであれば、4年目にやって次の段階に行くわけですので、書かなくてもいいと思いますが、その辺りが次につながるということを最初の段階で、評価票の意図は説明した方がいいと思います。今の議論でいいと思いますが。
委員長	次の総合戦略なり、次の行革大綱に繋がるという所ですよ。というのを上の説明書き辺り、もしくは第1回目の記入の仕方の所で、事務局からの説明があったり、いずれにしてもその辺りの趣旨が外部評価委員に伝わるような形でお願いします。

②評価表を使った施策評価・事務事業評価

委員長	②評価の比較と調整ということで、今回委員からはまだ手が付かなかったということですが、副委員長と私で評価が一緒だったりズレたりという所について、まず事務局より説明をお願いします。
事務局	《資料説明》

委員長	まず、それぞれ何故私が A なのかということ、私が説明申し上げて、何故副委員長が C なのかを、それぞれ説明をした上で委員全体で調整という形でもいいのではないのでしょうか。
委員	ちなみに私は B でした。
事務局	全員違いますね。
委員長	私は単純にシンプルでして、資料 1・2 の数値目標がほぼ全部前年度を上回っているという所でした。目標値の実績値がほぼ上回っているので、これは上手くいっているのだなということで、私は A にしました。小嶋委員、いかがでしたか。
副委員長	<p>私は前にも会合の中で、定住人口対策というのが大事だと、特に県内でも稲敷市の人口減少率は下から 3 番目だと言ってきました。今回出してもらったデータ集の 1 番目にもありますが、大子町の次の、河内町、稲敷市、美浦村と 3 つ合わせれば県内でも一番低いと思うのですよね。大子町を抜いて、河内町も美浦村も地続きですから。そういう地域の中で人口対策、定住対策をもっとしっかりやってもらいたい、やらなければ消滅市町村になるのは明らかです。そういう重要な施策なので、単純に計画しているものだけでの評価でいいのかなという思いが強いです。ですから、施策の中で変化できるような事業構成にしてほしいです。これとこれとこれをやります、これがこの事業のメニューで、これ以外はやらないという事業構成ではなくて、もっと特認事業のような形で、アイデアを募集して、単年度で違うものに取り組めるような変化が出来るようなものにするとか。それをしないと手前みそで事業が完了しても、さっぱり人口が増えないと。</p> <p>それは手段と目的がかけ離れてしまっているのですよね。事業をやれば完成するみたいになってしまっているが、実際問題そうではないと思います。その辺りはここに書いてある文章を読んでいただければ分かるように、そういう思いを込めて評価をしています。</p>
委員長	ありがとうございます。委員、お願いします。
委員	私はどちらかというと、委員長と近い評価の仕方をさせていただきました。基本的には資料 1・2 に書かれているものを達成しているのかどうか、ということで B の概ね期待通りの成果にしました。何故かということ、水道普及率と、産官学連携事業数が C でしたので、期待通りの成果という所まではつけられないのかなというのが主な理由です。評価の仕方、評価をどこまでしたらよいかは実は悩みまして、副委員長が仰った所まで入れての評価なのか、そこは先程の③の自由記述において指摘をするべきなのか、という所は明確にしておかないと、評価が委員同士でも分かれるのではないのかと、今聞いてみて思いました。

委員長	ありがとうございます。私は分かれていいと思います。むしろ、三者三様に考え方が違って、ある程度ここは、何時間もかけるような所ではないと思いますが、評価がズレた場合には実際に集まるなり、Zoomを使ってこういう風にやるなりして、10分20分議論をして、じゃあどうしましょうかということが、むしろ逆にあった方が外部評価の意味にはなると思います。
委員	その時に、委員長と副委員長と私で3人でやるという、将来の想定をした時に、誰も譲らなかった時にどういった評価をするのでしょうか。
委員長	それはもう多数決か、委員長の独断ではないですか。
委員	私はそうであるならば、事業の進捗度で1, 1, 1と評価が分かれた、それも結論に至らなかった場合には、1, 1, 1というように、数値化していれば分かりやすいと思いました。
委員長	つまりAの評価が何人、Bの評価が何人、Cの評価が何人というような感じでしょうか。
委員	はい。
委員長	それはありかもしれないですね。もちろん委員会一致でこれですよというのが一番いいかもしれないですが、どうしてもまとまらなかった場合には、あえて無理やりまとめるのではなくて、評価が分かれたということが、結果として紙に残った方がいいかもしれない。確かにその通りだと思いました。
事務局	事務局では、重点プロジェクトの進捗度を「概ね順調」にさせていただいております。ただ、こちらは機械的に資料1-1の8ページの方に、数値化の方の数字が入ってしまっていて、そちらの方の数字を計算して出させていただいております。今回初めて、この様式の方を使わせてもらったので、やってみて分かりづらいところもあったのですが、プロジェクト2の場合はギリギリ3.0ということで「概ね順調」となり、資料の5-1でいうとBの期待通りの成果と一致するような所で作らせていただきました。
副委員長	この施策は先程申し上げましたように、事業の内容が固定してしまっているのです。そうすると、自動的にこの点数評価区分で「概ね順調」という評価になるのが一番一般的かと思います。ですから、私は重要な施策についてはこの事業の組み立てをガチガチにしないでもらいたいです。じゃないと評価が固定的、ミクロになって、マクロ、動的にならないのですよ。
委員長	ありがとうございます。副委員長が仰ることごもっともでして、だからこその③のビルドの部分というものを、外部評価委員が相当書き込む必要があると思います。私が思ったのは、例えば移住定住に関しては3人でもかなり評価が分かれたわけですが、プロジェクト2のたくましく生きる

	部分では、私と小嶋委員の意見は一致しておりますし、それは内部での評価も一致しているわけですね。ミクロな視点から見ても一致するし、マクロの視点から見ても一致するという部分もあったりするので、これはこれでいいのかなという気がしました。
委員	よろしいでしょうか。今事務局からご指摘いただいた7ページ8ページの資料1-1の所ですが、このKPIの期待値なんですけど、例えば7ページの所で、タブレット端末の導入整備率というのは将来値が100%になっています。たぶん始めた時に、来年全てが100%にはならないはずですよ。最初に例えば普及率が25%とか、50%となると、最初はこれだけで評価をしてしまうと、ものすごい低い評価が出る傾向にあるのではないかと思います。勿論、そうするのであれば、実は毎年の将来値、平成3年度まではここまでやりますとか、平成4年度まではここまでやりますというようにしていかないと、進捗状況を正確に反映できないのではないかと思います。そこの所の疑問をご指摘をさせていただきました。
委員長	ありがとうございます。同じことを私も思っていましたけど、ここに書いてある100%というのは、実施計画書のものなんですよ。なので、実施計画において、目標値が各年度ごとに今の所なっていないわけですよ。だから現状のこの実施計画書のフォーマットを使うならば、しょうがないのかなという気もしなくもないです。
事務局	目標指標、指標の数値の設定の仕方なのですが、今このタブレットのように、4年後100%を目指すという場合、毎年この100%を目指していて、年度ごとに25、50、75と数値が上がっていくような形でしていない事業もありますし、中には計画的に作っている事業もあります。ここに關しましては一貫性がないのは確かです。ただ、タブレットに関しては、実は今年100%達成してしまっている状況なのですが、今言われたように、指標の設定の仕方については、やはり事務局の方で、担当課の方に設定の仕方をきちんとしていただかないと、ちゃんとした評価が出来ないのかなと感じました。
委員長	そうするとそちらはもう内部の話になってきますので、その辺りは担当部局と調整をお願いいたします。

③ヒアリングによる施策評価・事務事業評価

委員長	次がお試しヒアリングなわけですが、説明をお願いします。
事務局	《資料説明》
委員長	ありがとうございます。資料1-1に基づくわけですが、今回の施策評価は資料2も出ていますよね。資料2についてもヒアリングで質問してもよろしいでしょうか。

事務局	お答え出来ないこともあるかもしれません。というのは、他の課の事業も入ってしまっているのです、ある程度把握はしていますが、細かくまでは回答が出来ない可能性があるのです、ご了承いただきたいと思います。
委員長	分かりました。いずれにしてみても、先程の議論で、書類で評価をしていく中で、疑問点は一回まとめて担当課に投げるということになったので、その体で一回やってみましょうか。
事務局	はい。
委員長	ありがとうございます。一応ヒアリングの担当者として事務局がいらっしゃる体で、担当課の事務局に対して資料1-1及び2-1に基づいて何かご質問をお願いいたします。
委員	よろしいでしょうか。
委員長	委員、お願いします。
委員	図書館の役割というのが、近年変わってきている、問われている時代になってきていると思います。私が理解している中での公的な図書館の役割というのは、単に一般書を貸し出すだけでなく、自治体の歴史的な資料を残すという所も重要な役割だと思います。現在稲敷市においては、単に貸し出すという所だけではなくて、資料保存という所には力を入れていらっしゃるのでしょうか。
委員長	事務局、お願いいたします。
事務局	はい、結論から言いますと、今のようなご質問だと私の方からきちんとした説明が出来ないのが現状だと思います。
委員長	今日は本番ではないので、答えられなければ答えられないで結構です。他にいかがでしょうか。
副委員長	図書館の図書というのは、生き物だとよく言われています。要するに、寿命があると。いつまでも古いまま蔵書に入れておいて何万冊蔵書数を誇っていますと言っても、古いものまで結構残っているので、新書だけではなくて、既存の本も更新していかなければならないと思っています。利用者数も大事ですが、図書を更新していくというのも実は大事です。借りる人が少ないかもしれないが必ずいるわけですから。図書については、そこをしっかりとやってほしいなと思います。貸し出しについては、江戸崎の公民館の図書コーナーを充実しないと貸出冊数は増えないと思います。人も多いですし。便利だし手前にはショッピングセンターもありますし。本館は郷土資料館として稲妻雷五郎を中心にやり、図書館は江戸崎を充実させていかないと増えないと思います。

	<p>つまり、まず、図書の整備の考え方について伺いたい。次に図書館の充実手段としては、本館ではなくて分館のレファレンスサービスを充実させるような施策を取り、拡充していかなければならない。</p>
事務局	<p>市では図書館がかなり手狭になっていると感じており、そろそろ今の図書館だけでいいのか考えなければならない状況ではあります。本の貸し出しについて先程お話があった以外にも、やはりこれからは電子図書なんかも、今コロナで考えていかななくてはいけないと感じているところです。</p> <p>各公民館の図書室と学校図書館などとの連携を今構築している所ですので、そういった所で図書の貸し出しも多くなれるように検討しているところです。</p>
委員	<p>よろしいでしょうか。</p>
委員長	<p>はい。お願いします。</p>
委員	<p>例えば、私がこれを見た時には、1つには③の屋内市民プール整備事業がありますけれども、具体的にどのような施設なのか、50m プールや25m プールなのか、温泉施設を併設するのか、というのを聞くとお思います。同じような質問として、給食センターの在り方事業検討、もしくはいなしき子ども大学事業、こういうものに指定管理者制度、もしくはアウトソースをするような検討はされているのでしょうか。</p>
事務局	<p>まず屋内市民プール整備事業についてなのですが、こちらは今年度から始まる事業なので、実は指標が中々ないので、現時点での進捗を書いております。</p> <p>まだ、今年度のヒアリング等をしていませんので、今、先程言われました、50m プールにするのか、25m プールにするのか、また、こちらの小学校、中学校の子ども達だけが使うだけなのか、それか老人の方やみんなが使えるようにするのか、また避難所としても使えるようなプールにするのか、こういった方針でプールつくるのかは、今年度構想を今練っていますので、そういった事がきちんと策定されて、事務局でヒアリングさせていただければ、そのようなことは答えられると思います。</p> <p>同じように給食の在り方についても、こちらに記載させていただいた内容以外については、質問等を事前にいただければ、こちらで担当課に確認をして答えられると思います。</p>
委員長	<p>私からも1つよろしいでしょうか。施策評価の進捗度の ABCD に丸を付けづらい場合に質問をするというような趣旨で質問をさせていただくわけですが、学校図書館の司書の整備状況ですが、欠員が出てしまったことが書いてあります。この事業に関する数値目標として、⑥がありまして、これは下がっているわけですが、関連事業として、小学校中学校の読書習慣の定着状況も、目標を達成していないわけですね。具体的に何</p>

	をやっているのかというのが気になっていて。学校司書を配置するために、どんな努力をしているのか、もしくは募集しているだけで何もしていないのか。このあたりいかがでしょうか。
事務局	こちらの学校司書、全部で小中学校市内14校あるのですが、2校に今年度配置出来ていないということで、85.7%の指標結果になっております。現在、令和3年年度の会計年度任用職員の募集をしています。読書習慣の定着率の根拠は小学校で年間50冊、中学校で年間30冊の本の読書数を100%目標としており、将来小学校85%、中学校45%以上を教育委員会で設定している数字がこちらになります。
委員長	ごめんなさい、余計な質問してしまったのでわかりにくかったです。読書習慣の定着率については無視してくださって大丈夫です。いわゆる2校で欠員が出たとき、欠員が出ないようにどんな工夫をしているかというところです。
事務局	すいません、募集をしているというのはわかるのですが、こういった取組をしているかはお答え出来ません。
委員長	わかりました。単に募集をしているだけなのか。努力をした上で集まらないのかでやはり評価は違ってくると思ったので、書面からはなかなか確認出来ませんからヒアリングで聞きたいなと思いました。
事務局	いま、2校に学校司書がいなのですが、来年度桜川地区の方で3つの小学校が統合になりますので、来年度はすべての小学校に配置される予定です。
委員長	承知しました、他いかがでしょうか。
副委員長	まず市民プールは高田にあるゴミ焼却場の拡充に伴う火力、熱利用をイメージしていると思っているのですが、その場合単なるアメニティ施設みたいなことではなく、定住対策事業にも結びつくように、単に施設を作って終わりということではなく、もっと有効活用するようなことは考えているのですか。
事務局	まず、小嶋委員の衛生管理、ごみ処理場の熱処理を使ってプールを整備されるんじゃないかというお話なのですが、いま検討しているのは新利根地区で、成田空港に近い地区で成田空港の地域振興枠という予算がありますので、そういったところを活用しながら、将来のランニングコストもその予算を活用して整備したいと市の方で検討している屋内型市民プールになります。
副委員長	ふれあいセンターにお風呂ありますが、閉めていますよね。
事務局	今現在お風呂の方は閉めています。

副委員長	運営費は成田空港は負担しないと思います。設置費だけで、結局市の負担になるランニングコストとなってくると思います。その辺はどう考えているのですか。
事務局	成田空港から毎年度地域振興枠ということで、ランニングコスト、光熱費などに活用していい予算が使えると伺っておりますので、そういったものを充てる予定であります。
副委員長	また、給食費の問題は滞納なのです。滞納が多いと、給食材料の経費に充てているので、十分な栄養が取れる食材が集められない、特に副食の内容が落ちますので、給食費の滞納対策をしっかりとやってほしいのです。要するに税外債権ですね、給食費に限らず。それは各市町村とも総務部がトータルで滞納整理の音頭取りをやっていきますので、稲敷市ではどう考えていますか。
事務局	稲敷市に関しては教育委員会で実施しています。
副委員長	個別の滞納整理とかは事業課がやっているのですが、全体を取りまとめて未収債権を把握して、方針を立てたり、研修をやったりしています。未収債権もそれぞれ性格があるので、滞納処分の自力執行権があるものや、裁判所に申し立てなければならないものとか、取り立ての手法が違うのでその辺を整理して方針を立てたり、そういうトータルの音頭取りをやっていくところが多いです。
事務局	稲敷市にも収納課というところがあるのですが。
副委員長	収納課が預かっているは税金であり、税の徴収は進んでいますが、税外債権については滞納処分が進んでいないので、どんどん増えてきているのです。
事務局	稲敷市の場合では各個別の担当課の方でそういったことをやっているのが現状です。

④シミュレーションを踏まえた外部評価の具体的手法について

委員長	<p>よろしいですか、時間もないので一旦シミュレーションを切りたいと思います。このような感じで基本的には書面を使って、書類上で施策評価をした上で書類だけ見ても進捗度がよくわからない、ABCDが付けにくいというものに関しては、質問項目をまとめて事務局で取りまとめて、担当課にお送りして、それについて担当課には回答を寄せていただく、それでも分からない場合はこんな感じで時間を決めてお呼びして、ヒアリングをして決めたうえで各委員がそれに基づいて評価をする。</p> <p>基本的にはヒアリングはイレギュラーと申しませうか、どうしても書類で分からないところはヒアリングする形でよろしいでしょうか。</p>
事務局	委員長、よろしいでしょうか。今回施策評価になりますので、施策評価は課が多岐に渡ってしまいますので、ヒアリング時に担当が来れないとか

	すぐ対応出来ない可能性があります。個別事業の評価は担当課をお呼びして、時間をある程度決めてというのは出来ますが、その辺はいかがでしょうか。
委員長	そうすると、書面でのやりとりは施策評価は出来ると思うのですが、ヒアリングに関しては施策評価は厳しいということですね。事務事業評価ではやるという方が現実的というところですね。
事務局	委員長の仰る通りです。
委員長	他のお二人はいかがですか。
委員	基本的にはその形によろしいかと思います。聞きたいことはたくさん出てくるので、質問項目表みたいなあくまでもアイデアですが、進捗度に関係する質問なのか、自由記述に関連する質問項目なのか、分けながら我々も頭の中を整理しながら質問をする、フォーマットの工夫もあるといいのかなと思いました。
副委員長	施策評価については、直接事業の内容だけで判断出来ません。事業評価はある程度出来ると思いますが、施策については幅広く質問していかないとまとめられないと思います。
委員長	いまの事務局からの提案ですが、施策評価についてヒアリングは難しいというご意見でしたが、いかがですか。
副委員長	ヒアリング出来ないですか。何課にもまたがるので、一同に会してみたいなことは難しいというなら分かります。
委員長	そういうことですね、複数の事業がぶら下がっていて、担当課が違う場合があるので、相当時間がかかるということです。
事務局	個別の事業評価の一環として聞くことは、重点プロジェクトに位置付けられている事業なので大丈夫なのですが、例えば委員さんに集まっていたいて、計画担当者がすべて答えられるかという難しいという印象がありました。質問は事前に担当課に返して、担当課に質問はするけれども、事務担当者から聞いて、計画担当者がお答え出来るかという難しい。
副委員長	施策については文書でやるしかないですね。部局全体のことを細かくは答えるのは難しいですね。
委員長	ありがとうございます。それではそんな形でまとめていただきたいと思います。
事務局	総合計画の重点プロジェクト2をヒアリングしていただいたと思いますが、総合計画は7つ、総合戦略は4つ、行革大綱は3つと、全部で14の森を見ようということで、1日半とかそれくらいを見ていた。今そのうちの一つをヒアリングしたと思うが、全部の施策評価をやるというのはどうでしょうか。
委員長	いま事務局が仰ったことはヒアリングを含めてということですね。

事務局	全部の施策評価を実施することは可能なかと思いました。
委員長	ということをご提案としては全部ではなく、一部を抜粋して施策評価するというご提案でしょうか。
事務局	はい、それもありがと思いました。
委員長	いかがでしょうか、資料6の部分ですね。パターン3´ですから。施策評価の14施策全部やるのは難しいという理解ですね。
事務局	結構大変なのかなと思ったのですが。
委員長	書類審査だけなら可能かと、今日やって思いました。それに対して疑問点をまとめていただいて回答を待ってヒアリングとなるとちょっと厳しいですよね。副委員長仰ったように施策とか重点プロジェクトに関しては、少なくともヒアリングはなしとして、あくまで書類を中心に評価する。疑問点に関しては担当課に照会するところまではやる。そのうえで14全部やるか減らすかということですがいかがでしょうか。
副委員長	やってみないと分からないが、14やることを目標に進めて時間が足りないときはまた考えれば良いと思います。ヒアリングはしないので、そんなにかからないとは思いますがどうでしょうか。
委員	事務事業評価などの細かいところから見ていく、と委員長おっしゃいませんでしたか。
委員長	私がお話したのは施策評価の一環としての事務事業評価だから、単体としての事務事業評価とは別の話。
委員	ボリューム感が分からないのでお答えしがたい。
委員長	わかりました。今日結論を出しにくいと思いますので、今日の議論とシミュレーション踏まえて14施策やった場合の時間がどのくらいかかるか、現実的にどのくらいが妥当かを事務局で検討頂くことできないでしょうか。
事務局	わかりました。
委員長	時間が迫ってまいりましたので、ここまでの議論をまとめさせていただきます。 施策評価、事務事業評価を実際にやってみての感想、意見ですが、まずいくつかのフォーマットの修正をお願いします。施策評価票と事務事業評価票、あと資料ですね実施計画書と事務事業評価調査票に関してフォーマットの修正をお願いします。ヒアリングは原則なし、まず書面を通じてやり、書類を評価して分からなかった点、疑問に思った点は文書を事務局にお送りして、事務局から各担当課に紹介して回答をいただく。基本的にはそれで終わり。ただし事業評価については、担当課を呼んでヒアリングも

	ありますが、あくまでもイレギュラーということになります。ほか何かありましたか。
委員	本来はもう一個ヒアリングシミュレーションがあったかと。
事務局	事業に関してヒアリングする予定でしたが、どうでしょうか。
委員	報告の提出の前に次回があるのであれば。
事務局	もう一回やらないとまとまらないかなと思うので、もう一度お時間あればやらせていただいと思っております。その時に事務事業評価をやるのも大丈夫ですし、試しに10分とかやってみて感想を5分くらいいただいという形でも可能です。
委員長	佐々木先生が4時半から授業が入っている。事業評価のシミュレーションをやるか、やらないかについてと、次回やるかやらないかについては、改めて検討させていただいてよろしいでしょうか。
事務局	わかりました。
委員長	もう1つのまとめとして、いきなり書面評価は難しいということですね。第一回は集まるなり Zoom なるの方法で事務局から評価のポイントや書面の書き方のレクチャーを受けてやるということ。
事務局	あとは施策評価に関してはヒアリングをなくしたうえで全部やるという前提で内部で検討して、次回に回答させていただくということによろしいでしょうか。
委員長	施策評価に関してはヒアリングなしですね。ヒアリングなしで14施策を書類でやるのか、書類だけでも14が厳しいのであれば、どのくらいやるかを事務局で検討していただき次回お示しいただくということによろしくをお願いします。

⑤報告書（案）について

委員長	次、報告書案についてお願いいたします。
コンサルタント	《資料説明》
委員長	報告書案についてなにかありましたら、ご意見ご質問をお願いします。
副委員長	流れが分かったのですが、具体的に施策評価と事業評価の対処はどのようにやるかどこに書いてありますか。
コンサルタント	外部評価の結論の部分については、9ページと10ページのあいだになるのですが、今年度の結論ということで取りまとめて入れさせていただければと思っております。

(3) その他

委員長	(3) その他です。事務局いかがですか。
-----	----------------------

事務局	次回は、意見を踏まえてたたき台を修正して報告書をまとめる内容になります。次々回が市長報告ということで考えておりますので、3月末くらいかと。次回の日程調整をお願いします。
委員長	確か、前回の段階では、次回は2月のあたまくらいでWebでというかたちでしたか。
事務局	委員が欠席でしたが、2月中旬にWebでと思っております。
委員長	そうすると、2月19日金曜ということになりますが。いつも通り2時からということで、ただ状況的にZoomでという形が良いかと思えます。
事務局	もう1つよろしいでしょうか。外部評価委員会を実際に3名の方が2年後に受けていただくとしたら、どの月がいいかお伺いしたいのですが。
副委員長	早めに日程を言っていただければ合わせます。いつがいいかは現時点では分からないので申し上げられません。
委員長	私どもは都合がつきやすいのは8月、9月の夏休み中、次が2月、3月春休み中ですが、2月、3月は入試が入ってきますので、8月、9月ほどはフレキシブルにはいかない。ほかは授業が入ってきますが、金曜日ならば研修日といって大学に行かなくていい日が週1回あるので調整はつきやすいです。
事務局	ありがとうございます。以上です。

5. 閉会

委員長	そろそろお時間ですが、最後に何かありますでしょうか。今日はオンラインというかたちでしたが、かなり突っ込んだ議論が出来たかと思えます。どうもありがとうございました。
-----	---

以上